

## A-40 野菜類の糖の変化に関する研究

京都女大家政 ○池田ひろ 江崎君子 津野貞子

目的 市販野菜は露路栽培からハウス栽培に移り出荷状況からみて野菜類の旬がなくなり一年中市場に出まわるものが多くなってきた。現在市販されている野菜の中には本来のおいしさが失われているものもある。今回は糖質のうち還元糖について検討した。

方法 試料としてトマト，ピーマン，ニンジン，ジャガイモ，サツマイモ，ダイコン，カブ，タマネギ，ホウレンソウなどを用い，成長過程による変化，収穫直後のものと市販品との比較，加熱調理による変化などについて還元糖をソモギー変法により測定した。

結果 開花後の日数経過とともにトマト，ピーマンなどにおいては還元糖の増加がみられた。収穫直後のものと市販品とでは収穫直後のものに含有量の多いものがめだった。トマトでは収穫後3～4日目には増量を示すが，以後は減少する。しかし増量しても完熟して採取したものにはおよばず，その差が食味の違いに影響をおよぼしている。加熱調理においては加熱方法および切り方の大小の違いにより異なった結果がえられた。